

佐藤 勇（さとう・いさむ）

1、プロフィール

歌人。昭和9年短歌結社「地上」に入会し、対馬完治、稲垣浩に師事。12年に「美籠」の社友。16年より作歌を中断する。46年「まひる野」に入会し、窪田章一郎に師事する。

<生没>

1909(明治42)年12月16日～1998(平成10)年7月24日

<代表作>

『親潮』『もくれんの花』『冬銀河』『もくれん記』

<青森との関わり>

青森市生まれ。昭和46年に「十和田短歌会」に入会、昭和48年より平成9年まで会長をつとめ、後進の育成。上北郡七戸町生まれ。青森県の歌誌「美籠」「国原」に入会し、「七戸群青短歌会」の代表として、後進の育成。

2、作家解説

昭和4年に青森師範学校を卒業。上北郡六戸尋常高等小学校に教師として赴任し、以来42年まで教職に就き国語教育に力を注ぐ。7年に「青森県教育」に文学教材研究として、国木田独歩、長塚節を取り上げる。節の作品では本来は教材となった小説が主であったが、節は歌人でもあったため、節の短歌をかなり読み、節の写生の作品に触れ深く味わうことになる。

また万葉集、古今和歌集、新古今和歌集を読んでいた勇は、「歌の意味は或る程度理解することが出来ても、その歌の良さ、巧みさ、深さというところまではなかなか至ることができない」として、9年に短歌結社「地上」に入会し短歌を作り、対馬完治、稲垣浩に師事する。

11年に「地上」にのせた作品を持参し、中央の有力歌人窪田空穂を訪問して直接指導を受ける。12年には稲垣浩の歌誌「美籠」に入会し、ますます作歌旺盛になっていた勇であるが、16年に太平洋戦争に突入し作歌を中断する。

作歌中断より30年近く経て、それまで国語教育に力を注いできた勇は、職を去る日が近づくにつれて、自分というものを内省することが多くなり、かつての「歌心」が再び甦って歌作をはじめた。46年に短歌結社「まひる野」に入会し窪田章一郎に師事する。同じ年に「十和田短歌会」にも入会し、昭和48年から平成9年までの長きにわたり会長をつとめた。

長い作歌中断を悔やむ勇は、精力的に作歌に励み、それらの歌を歌集『親潮』『もくれんの花』『冬銀河』として上梓した。また勇は、昭和15年に文部省募集児童映画シナリオに入賞、「太陽に向かって」「野辺地小唄」や百石小学校はじめ他五校の校歌の作詞なども手掛けた。

勲五等雙光旭日章、青森県歌人功劳賞、十和田市文化賞などの受賞、東奥歌壇、デーリー歌壇、その他各短歌大会の選者などをされて、県、地域の短歌の普及と後進の育成に尽力した。

3、資料紹介

○『冬銀河』

図書

1996(平成8)年12月16日

195 mm × 135 mm

1987年から1996年までの作品で、歌誌「まひる野」に出詠した中から自選したものと他に発表したものを加え、年代順にまとめた著者の第三歌集。あとがき、著者の短歌に相馬和孝が曲をつけた「夕日燃え」の楽譜、歌歴を掲載している。